

蒼葉

裾野市立深良中学校だより

平成 23 年 10 月 7 日(金)

第 22 号

発行人 校長 鈴木史良

後期一步向上を目指して

— 自分を高めるため新たな発想による目標づくり —

今号は前期終業式での校長の話の概要を紙面で紹介しましょう。前期末の三者教育相談で、担任から成績や学校生活の様子についての話があったと思います。子どもたちは前期を通して満足できた点、満足できなかった点を振り返ることができたでしょう。

終業式では、自分をさらに一步高める目標の作り方について話をしました。ここで登場したのが「二宮金次郎」です。

彼は江戸時代、小田原の貧農に生まれ、10代前半で両親を失います。兄弟みな親類たちに引き取られての生活を体験しますが、自分の目標をたてて努力した金次郎は、23、4

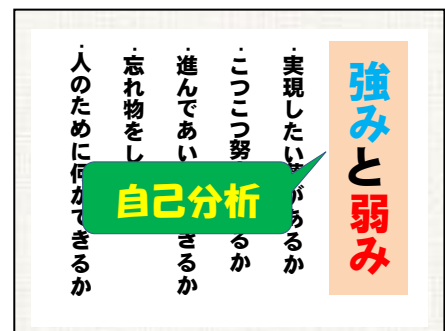
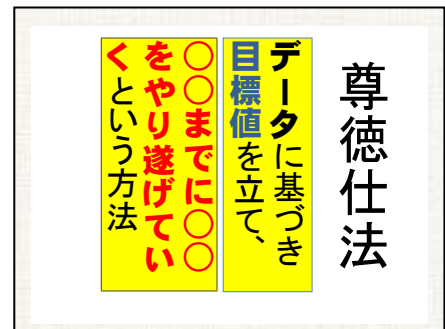
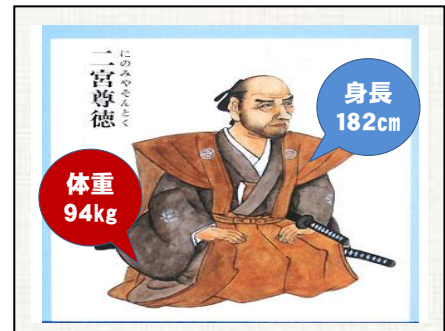
歳の若さで失われた田畑を買い戻し、家を再興しました。その後、小田原藩に重用されたり、北関東の村々の再興に尽力したりした話は有名です。

注目したいのは、彼の考えた方法論です。“尊徳仕法”と呼ばれ、“データに基づき目標値を立て、〇〇までに〇〇をやり遂げていく”という方法です。驚いたことに、これは現代、世界から認められた日本の企業が入り入れた科学的な品質管理方法（クオリティ・コントロール）の考え方と同じです。

これを学校生活に当てはめて考えると、生徒たちのこれまでの目標づくりは、「〇〇になりたい」「〇〇ができるようにする」といった自分の願望を表現したものが主流で、いつまでたっても実現せずにあきらめたり、忘れ去られたりしてきました。

この壁を打破するためには、子どもたち自ら自分の強み、弱みを明らかにし、それをもとに目標を設定していくのです。新しい目標づくりはまず、「〇〇までに〇〇ができるようになりたい。」と決め、次に「そのために、今やらなければならないことは〇〇だ。」と自覚し、「その〇〇をやるために行動する。」ことです。

中学生は、もはや大きな子どもではなく、小さな大人になるべきだと思います。中学生の時期こそ、自分の将来の可能性を大いに広げる基礎づくりに重点を置いたらいかがでしょう。



1年生「いのちの用水」背景画完成間近！

2月の発表会を目指し、1年生が深良用水について調べたプレゼンテーション作りを進め、美術の時間では全員の共同制作によるステージ背景画が完成間近となりました。縦5m横12mの布地に深良の山々を描いています。今月31日（月）にはプレゼンテーション発表会を保護者の皆様に公開するとともに、大道具、小道具を製作したいと考えています。子どもたちと一緒に製作のお手伝いをしていただける方々を募集したいと思います。午前中、ご都合のつく方はぜひご参加ください。（担当 持田 997-0116）



見る者を圧倒する背景画を制作中

三者教育相談終わる

今週月曜日から4日間の日程で、生徒、保護者、担任による教育相談が行われました。前期のお子様の学校生活における学習達成度、意欲や行動等をご理解いただき、後期に向けてさらに頑張れるよう、ご家庭でも励ましていただきたいと思います。良さを認められ、褒められた子どもは新たな意欲をもって自己を成長させることができます。今後ともご家庭と学校との連携を深めていきたいと思ひます。

ある日の授業風景

2年A組 道徳 「ストレス・マネジメント」

授業者 川合雅哉

「君たちはどんな時にストレスを感じますか？」

「親がみがみ言われた時。」「朝起きるとき。」「塾に行くとき。」「友達とけんかした時。」「弟がうざい時。」・・・子どもたちの口々から出てきたこれらの言葉。今日の道徳の授業は、どうやってストレスを解消していくか、ストレス解消法(コーピング)の学習です。深良中の子どもたちは穏やかで、優しい子どもばかりですが、ストレスも抱えています。生活上の様々なストレスに対してどのように対処していったらよいか。

「積極的コーピング」「中間的コーピング」「消極的コーピング」それぞれの利点や具体的な方法について、ロールプレイで発表し合いました。「あーあ、あれだけ勉強したのにちっとも成績が上がらないや。」「でも、いつまでもくよくよしてもしょうがない。次のテストで挽回すればいいか。」積極的コーピングです。少しは気にしてほしい気持ちもありますけどね。

